

令和4年度 全国学力・学習状況調査結果

概要と指導の改善策

令和4年10月19日
旭川市立愛宕中学校

○ 調査結果の分析に当たって

本年4月19日に実施しました「令和4年度全国学力・学習状況調査」について、この度、本校の結果の概要と改善策をまとめました。

結果の分析に当たっては、国立教育政策研究所が作成した解説資料等を参考にしながら、旭川市教育委員会の本調査結果の公表についての考え方を踏まえ、次のとおりといたしました。

■教科に関する調査の結果分析

- 学校としての平均正答率が80%以上のものを「成果」、
// // 60%以上80%未満のものを「おおむね達成」、
// // 60%未満のものを「課題」 として整理。
- 課題の中から特に平均正答率が低く指導の改善が必要であるものを抽出し、その出題の趣旨から生徒に身に付けさせなければならない力を分析。
- 具体的な授業場面における改善方策を明示。

■生徒質問紙調査の結果分析

- 質問項目に「している」「どちらかといえばしている」など、肯定的な回答をした生徒の割合が80%以上のものを「肯定的な回答が高い割合を示した質問項目」
- 質問項目に「している」「どちらかといえばしている」など、肯定的な回答をした生徒の割合が60%未満のものを「肯定的な回答が低い割合を示した質問項目」 として整理。

【本報告書作成に当たって参考とした資料一覧】

- 「令和4年度全国学力・学習状況調査」の調査問題、正答例、解説資料（国立教育政策研究所）
<<https://www.nier.go.jp/22chousa/22chousa.htm>>

■教科に関する調査の結果分析

〈国語 出題の趣旨等及び成果と課題〉

【成果が見られた設問（平均正答率が80%以上のもの）】

- 1-1 聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫する
- 2-1 助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使う
- 2-2① 文脈に即して漢字を正しく書く（のぞく）
- 4-3 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解する

【おおむね達成していた設問（平均正答率が60%以上80%未満のもの）】

- 1-2 論理の展開などに注意して聞く
- 1-3 自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す
- 2-2② 文脈に即して漢字を正しく書く（よろこんで）
- 3-2 事象や行為、心情を表す語句について理解する
- 3-3 場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉える
- 3-4 場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈する
- 4-2 漢字の行書の読みやすい書き方について理解する

【課題が見られた設問（平均正答率が60%未満のもの）】

- 2-3 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く
- 3-1 表現の技法について理解する
- 4-1 行書の特徴を理解する



【指導の改善に向けて】

《自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く》

- ・自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確認めさせる。
- ・自分の思いや考えを繰り返すだけでなく、根拠を文章の中に記述する必要があることを理解して書かせる。
- ・分かりやすい文章にするために、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いださせる。
- ・読み手は、書き手の目的と意図を理解した上で、単なる印象ではなく、具体的な記述を取り上げて助言する。

《表現の技法について理解する》

- ・説明的な文章や文学的な文章などの文章の種類を調和的に取り扱う。

《行書の特徴を理解する》

- ・文字を正確に読みやすく書くことができるという、文字の伝達性を重視して指導する。

〈数学 出題の趣旨等及び成果と課題〉

【成果が見られた設問（平均正答率が80%以上のもの）】

5 多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解している

【おおむね達成していた設問（平均正答率が60%以上80%未満のもの）】

2 簡単な連立二元一次方程式を解くことができる

6(1) 問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる

7(2) 箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができる

9(1) 証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している

【課題が見られた設問（平均正答率が60%未満のもの）】

1 自然数を素数の積で表すことができる

3 反例の意味を理解している

4 一次関数の変化の割合の意味を理解している

6(2) 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる

6(3) 結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる

7(1) データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる

8(1) 与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる

8(2) 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる

9(2) 筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる



【指導の改善に向けて】

《自然数を素数の積で表すことができる》

- ・事象を数や式を用いて考察する場面では、数を和や積に表すなどして数量の関係を捉え、事象の特徴を読みとり、説明させる。

《反例の意味を理解している》

- ・命題や推測した事柄について考察する場面では、命題や事柄が常に成り立つことを説明するだけでなく、常に成り立つとは限らないことも説明できるようにさせる。

《一次関数の変化の割合の意味を理解している》

- ・関数を用いて事象を捉え考察する場面では、具体的な事象の中から伴って変わる二つの数量を取り出して、その変化や対応の様子に着目して関数関係を見だし、その間難の特徴を調べるために、変化の割合を求めさせる。

《目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる》

- ・数に関する事象を考察する場面では、成り立ちそうな事柄を予想し、予想を確かめ、事柄が成り立つ理由について筋道を立てて考え説明させる。を考え、それを数学的に説明させる。

「結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる」

- ・数に関する事象を考察する場面では、問題の条件を変えるなどして、総合的・発展的に考察させる。

「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」

- ・日常生活や社会の事象を考察する場面で、データやグラフなどを適切に読み取り、データの傾向を捉え、批判的に考察し判断することが求められる際に、判断の理由を数学的に説明させる。

「与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる」

- ・日常生活や社会の事象を考察する場面で、事象を理想化したり単純化したりして、その特徴を的確に捉え、事象を数学的に解釈させる。

「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる」

- ・日常生活や社会の事象を考察する場面で、事象を理想化したり単純化したりして、問題解決の方法を考え、それを数学的に説明させる。

「筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる」

- ・図形の性質を考察する場面では、成り立つと予想した事柄について、論理的に考察し、それを数学的に表現することが大切である。

〈理科 出題の趣旨等及び成果と課題〉

【成果が見られた設問（平均正答率が80%以上のもの）】

- 1 (2) タッチパネルの反応に水が関係しているかを調べるために、変える条件と変えない条件を適切に設定した実験操作の組合せを選択する
- 3 (1) 分子のモデルで表した図を基に、水素の燃焼を化学反応式で表す

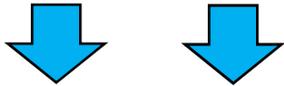
【おおむね達成していた設問（平均正答率が60%以上80%未満のもの）】

- 4 (1) ダイオウグソクムシとダンゴムシのあしの様子が異なることについて、生活場所や移動の仕方と関連付け、その理由を説明する
- 4 (2) 脊椎動物には骨格のつくり共通点があることから、カラスの関節Aに対応するヒトとカエルのあしの関節を選択する
- 7 (2) 吸湿発熱繊維に水蒸気を多く含む空気を通した一つの実験だけで行った考察について、課題に正対しているかどうかを検討し、必要な実験を指摘する

【課題が見られた設問（平均正答率が60%未満のもの）】

- 1 (1) 日常生活の中で、物体が静電気を帯びる現象を選択する
- 2 (1) 観測した気圧と天気図の気圧が異なる理由を空気の柱の長さで説明する際、適切な長さの変化を選択する
- 2 (2) 気圧、気温、湿度の変化をグラフから読み取り、雲の種類の変化と関連付けて、適切な天気図を選択する
- 2 (3) 上空の気象現象を地上の観測データを用いて推論した考察の妥当性について判断する
- 3 (2) 水素を燃料として使うしくみの例の水の質量の変化について、適切なものを選択する
- 3 (3) 水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおもとを指摘する
- 5 (1) おもりに働く重力とつり合う力の矢印を選択し、その力について説明する

- 5 (2) 「ばねが縮む長さは、加える力の大きさに比例するか」という課題に正対した考察を行うために、適切に処理されたグラフを選択する
- 5 (3) 考察の妥当性を高めるために、測定範囲と刻み幅をどのように調整して測定点を増やすかを説明する
- 6 (1) 玄武岩の露頭で化石の観察が可能か判断し、その理由を選択する
- 6 (2) 陸上のB地点で古生代のサンゴの化石が観察されることについて、垂直方向の変動だけで推論した他者の考察を検討し、水平方向の変動も踏まえた推論が必要であることを指摘する
- 6 (3) 東西方向と南北方向の地層の断面である露頭のスケッチから、地層が傾いている向きを選択する
- 7 (1) 液体が気体に状態変化することによって温度が下がる身近な現象を選択する
- 8 (1) アリが視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を基に、課題に正対した考察を記述する
- 8 (2) 予想や仮説と異なる実験の結果が出る場合、その意味することや考えられる可能性について考え、実験の操作や条件制御の不備の可能性を指摘する
- 8 (3) 生物Xが昆虫類かどうかアリと比較しながら、観点と基準を明確にして判断する



【指導の改善に向けて】

≪日常生活の中で、物体が静電気を帯びる現象を選択する≫

- 異なる物質同士をこすり合わせると静電気が起こり、帯電した物体間では空間を隔てて力が働くこと及び静電気と電流には関係があることを見いだして理解させる。

≪観測した気圧と天気図の気圧が異なる理由を空気の柱の長さで説明する際、適切な長さの変化を選択する≫

- 気象要素として、気温、湿度、気圧、風向などを理解させる。また、気圧を取り上げ、圧力についての実験を行い、圧力は力の大きさと面積に関係があることを見いだして理解させるとともに、大気圧の実験を行い、その結果を空気の重さと関連づけて理解させる。

≪気圧、気温、湿度の変化をグラフから読み取り、雲の種類の変化と関連付けて、適切な天気図を選択する≫

- 前線の通過に伴う天気の変化の観測結果などに基づいて、その結果を暖気、寒気を関連付けて、理解させる。

≪上空の気象現象を地上の観測データを用いて推論した考察の妥当性について判断する≫

- 霧や雲の発生についての観察、実験を行い、そのでき方を気圧、気温及び湿度の変化と関連付けて理解させる。

≪水素を燃料として使うしくみの例の水の質量の変化について、適切なものを選択する≫

- 2種類の物質を反応させる実験を行い、反応前とは異なる物質が生成することを見いだして理解させるとともに、化学変化は原子や分子のモデルで説明できること、化合物の組成は化学式で表されること及び化学変化は化学反応式で表されることを理解させる。

≪水素を燃料として使うしくみの例の全体を動かせるおもとを指摘する≫

- 電流によって熱や光などを発生させる実験を行い、熱や光などが取り出せること及び電力の違いによって発生する熱や光などの量に違いがあることを見いだして理解させる。

「おもりに働く重力とつり合う力の矢印を選択し、その力について説明する」

- 物体に力を働かせる実験を行い、物体に力が働くとその物体が変形したり動き始めたり、運動の様子が変わったりすることを見いだして理解させるとともに、力は大きさと向きによって表されることに気付かせる。また、物体に働く2力についての実験を行い、力がつり合うときの条件を見いださせて理解させる。

「ばねが縮む長さは、加える力の大きさに比例するか」という課題に正対した考察を行うために、適切に処理されたグラフを選択する」

- 実験の結果から縦軸を設定し、更に、データをグラフ上に表した点を、適切に処理して、課題に正対した考察を行うためのグラフを作成させる。

「考察の妥当性を高めるために、測定範囲と刻み幅をどのように調整して測定点を増やすかを説明する」

- 考察の妥当性を高めるために、課題に正対した実験の計画を立案させ、探究の過程を振り返るなど検討して改善させる。

「玄武岩の露頭で化石の観察が可能か判断し、その理由を選択する」

- 身近な地形や地層、岩石などの観察を通して、土地の成り立ちや広がり、構成物などについて理解するとともに、観察器具の操作、記録の仕方などの技能を身に付けさせる。

「陸上のB地点で古生代のサンゴの化石が観察されることについて、垂直方向の変動だけで推論した他者の考察を検討し、水平方向の変動も踏まえた推論が必要であることを指摘する」

- 地層の様子やその構成物などから地層のつき方を考察し、重なり方や広がり方についての規則性を見いだして理解するとともに、地層とその中の化石を手掛かりとして過去の環境と地質年代を推定できることを理解させる。

「東西方向と南北方向の地層の断面である露頭のスケッチから、地層が傾いている向きを選択する」

- 地図と路頭の様子を関連付けて、考察させ、地層の傾きを時間的・空間的な見方を働かせて、分析させる。

「液体が気体に状態変化することによって温度が下がる身近な現象を選択する」

- 物質の状態変化についての観察、実験を行い、状態変化によって物質の体積は変化するが質量は変化しないことを見いだして理解させる。

「アリが視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を基に、課題に正対した考察を記述する」

- 動物が外界の刺激に適切に反応している様子の観察を行い、その結果を分析して解釈し、その仕組みを感覚器官、神経及び運動器官のつくりと関連付けて考察させる。

「予想や仮説と異なる実験の結果が出る場合、その意味することや考えられる可能性について考え、実験の操作や条件制御の不備の可能性を指摘する」

- 動物が外界の刺激に適切に反応している様子について、観察、実験の操作や条件の制御などの探究の方法について検討し、探究の過程に見通しをもち理解させる。

「生物Xが昆虫類かどうかアリと比較しながら、観点と基準を明確にして判断する」

- 身近な動物の外部形態の観察を行い、その観察記録などに基づいて、共通点や相違点があることを見いだして、動物の体の基本的なつくりを理解させる。また、その共通点や相違点に基づいて動物が分類できることを見いだして理解させる

■生徒質問紙調査の結果分析

生徒質問紙調査

【肯定的な回答が高い割合を示した質問項目（先頭は質問項目の番号を示す）】

- (1) 朝食を毎日食べていますか
- (3) 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか
- (7) 自分には、よいところがあると思いますか
- (8) 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか
- (10) 自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか
- (12) 人が困っているときは、進んで助けていますか
- (13) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか
- (15) 人の役に立つ人間になりたいと思いますか
- (16) 学校に行くのは楽しいと思いますか
- (18) 友達と協力するのは楽しいと思いますか
- (19) 家で学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていますか（複数選択）
- (21) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）
- (32) 1, 2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか
- (33) 学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか（インターネット検索など）
- (36) 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか
- (38) 1, 2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか
- (39) 1, 2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか
- (43) 学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか
- (46) あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか
- (50) 国語の勉強は大切だと思いますか
- (51) 国語の授業の内容はよく分かりますか
- (52) 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか
- (54) 数学の勉強は大切だと思いますか
- (55) 数学の授業の内容はよく分かりますか
- (56) 数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか
- (68) 理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察していますか
- (国1) 今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか
- (国2) 解答時間は十分でしたか（50分）
- (数1) 今回の数学の問題では、言葉や数、式を使って、説明する問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか
- (理1) 今回の理科の問題では、解答を文章などで書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか
- (理2) 解答時間は十分でしたか（50分）

【肯定的な回答が低い割合を示した質問項目（先頭は質問項目の番号を示す）】

- (4) 携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか
- (5) 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか
- (6) 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く）
- (20) 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）
- (22) 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）
- (23) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）
- (24) あなたの家には、およそどれくらい本がありますか（一般の雑誌、新聞、教科書は除く）
- (25) 新聞を読んでいますか
- (28) 地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか（習い事の先生は除く）
- (29) 今住んでいる地域の行事に参加していますか
- (30) 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか
- (34) 学校で、学級の生徒と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか
- (35) 学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか
- (37) 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、勉強のために使っていますか
- (48) 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか
- (57) 数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか
- (61) 理科の勉強は好きですか
- (64) 理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか
- (66) 将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いませんか

【その他（先頭は質問項目の番号を示す）】

(2) 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか

(9) 将来の夢や目標を持っていますか

(11) 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか

(14) 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか

(17) 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか

(26) 読書は好きですか

(27) 自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありますか

(31) 放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか（複数選択）

(40) 1, 2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか

(41) 1, 2年生のときに受けた授業では、自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行っていましたか

(42) 1, 2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか

(44) 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

(45) 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか

(47) 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか

(49) 国語の勉強は好きですか

(53) 数学の勉強は好きですか

(58) 数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか

(59) 数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか

(60) 数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか

(62) 理科の勉強は大切だと思いますか

(63) 理科の授業の内容はよく分かりますか

(65) 理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

(67) 理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか

(69) 理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか

(数2) 解答時間は十分でしたか（50分）

■生徒質問紙調査の結果から

生徒質問紙調査の結果から、朝食を毎日食べたり、毎日同じくらいの時刻に起きたりするなどの基本的な生活習慣は身に付いている様子が見られます。

先生から自分のよいところを認められていると感じるとともに、学校で、友達に会うことを楽しみにしており、友達と協力したり、人が困っているときは進んで助けたりするなど、人の役に立つ人間になりたいと考え、いじめはどんな理由があってもいけないと考えたりするなど、人を思いやる心が育っている様子が見られます。

また、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだり、学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている生徒が多く、自己肯定感をもって過ごしていると考えられます。

一方で新聞を読むことや地域行事への参加など地域や社会への関心や、数学や理科の学習を普段の生活に生かすといった日常生活との関わりに低い様子が見られました。

また、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）の使用時間が長く、土曜日や日曜日など学校が休みの日に、学習する時間が短いといった、本校の生徒の状況も浮き彫りになっています。

■学力向上に向けた今後の取組

■学力向上に向けた今後の取組

これらの調査結果に基づき、国語科、数学科、理科においては、学力調査を受けた第3学年の生徒に対し、十分に身に付いていないと思われる学習内容について、日常の授業を通じて、再度指導を行ってきました。

また、今年度の生徒質問紙調査の結果から見られた課題は、授業で学習したことを、普段の生活の中で活用することや計画的に家庭学習を行うなど主体的に自らの学習を調整することです。これらは、新学習指導要領の完全実施にともなった主体的に学習に取り組む態度の側面であることから、第3学年生徒だけではなく本校の生徒全体の課題として捉え、その改善に向けて全校的に取り組む必要があると考えています。

こうしたことから、本校では、学力向上に向け、次の取組を行ってまいります。

1 授業改善

本校では、研究主題「主体的に学ぶ生徒の育成」～学ぶ意欲を伸ばす評価活動（ループリック）の実践を通して～のもと、「主体的に学ぶ生徒」の育成に向けて、「学ぶ意欲を伸ばす評価活動（ループリック）」をキーワードとし、校訓の「やる気 本気 根気」と関連付けながら生徒を育成し、学校教育目標の具現化に迫っていくため、教師と生徒、生徒同士の共感的理解に基づく人間関係を重視しながら、自己存在感を高め、自己決定の場面を指導過程に効果的に位置付けるなどの指導方法の改善・工夫に努めてきました（単年度研究）。ループリック評価を用いて生徒の達成度を形成的評価することにより、生徒の実態に応じて授業改善したり、生徒に探究の過程の見通しをもたせたりすることで、「見通し」と「振り返り」を重視した生徒同士の「学び合い」を誘発し、生徒の教科学習に対する知的好奇心を刺激し、「楽しい」「分かる、できる」を生徒に実感させる授業を実現するとともに、主体的に学習に取り組む態度の育成につながるものと考えます。主体的に自らの学習を調整したりする生徒を育成するため、生徒に生じた問いや授業の課題について必然的に対話（対教師、生徒同士）が生まれるよう授業展開を工夫することや対話する時間を授業の中に位置づけ十分に確保すること、ICTを活用して情報を収集し、それらを多面的・多角的に吟味すること、大型ディスプレイ等を用いて発表したり互いの情報を交流したりして、他者の感想や意見を基に自分の考えを広げ深めること、学習過程を振り返り改善をすることなどといったように授業改善を行います。また、授業で学習したことを、普段の生活の中で活用することに課題が見られるため、単元の終盤に活用課題を設定し、学習した知識を使って解決させます。単元をまたがるような内容や教科横断的な内容を扱うことで、実生活の中で生きてはたらく力を育成します。これまでの本校の取組の研究成果を踏まえ、日々の授業の一層の改善・充実に努めてまいります。

2 落ち着いた学習環境づくり（学習習慣を含む）

学校において、生徒が安心して授業に臨み学習内容を確実に身につけることができるようにするためには、規律を定着させ落ち着いた雰囲気の中で学ぶことができる環境を整えることが大切です。そのために、本校では、教職員間で学習のきまりについて共通理解を図るとともに、年度当初から生徒への指導を継続してまいりました。今後も、学習規律の一層の確立に努めるとともに、学級経営を重視し、学級活動や学校行事等の特別活動を通じて、互いのよさや違いを認め合う望ましい集団づくりに努めてまいります。

本質問紙調査の結果によると、平日の学習時間において全国の中学校3年生の34.3%（本校3年生は28.6%）が2時間以上勉強すると解答しており、休日の学習時間において全国の中学校3年生の20.6%（本校3年生は17.3%）が3時間以上勉強すると解答している。主体的な家庭学習習慣において課題が見られることから、学校外での学習時間の十分な確保や家庭学習の充実を図るため、家庭や地域と連携したり、ICTを活用することで生徒の個に応じた学習を進めたりすることで学習習慣の定着を促進するとともに、その大切さを理解し自らの意思で学習する意識を生徒一人ひとりに醸成していきます。

また、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）の使用時間が長く、学校の授業時間以外に学習する時間が短いといった、本校の生徒の状況も浮き彫りになっているため学習習慣とともに生活習慣の改善に努めていきます。

3 望ましい習慣づくり

学力の向上はもとより、生徒が夢や目標を見つけ、その実現に向けて努力する態度を培うためには、規則正しい生活習慣を身に付けることが大切です。しかしながら、本質問紙調査の結果によると、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）の平日1日当たりの使用時間において、全国の中学校3年生の50.3%（本校3年生は64.7%）が1日2時間以上すると解答しています。また、携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方に関する家の人との約束については、全国の中学校3年生の69.5%（本校3年生は59.4%）が守っていると解答しており、全国の中学校3年生の26.3%（本校3年生は36.9%）が守っていないもしくは約束はないと解答しています。本校生徒について、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）などのメディアの管理において課題が見られることから、その改善が急務となっています。生活習慣は、一定の時間をかけて形成されていくことや、一度習慣化されたことを変えることは容易ではないことから、その改善のためには、家庭との緊密な連携とともに、校区小学校との共通理解に基づく一貫した指導が必要であると考えます。

現在、本校では各学年において、生徒の実態を踏まえ、基本的な生活習慣づくりのための具体的な取組を進めてきており、今後、成果・課題の検証と取組の一層の充実を図ってまいります。